

キーワード：自律、情報活用能力、系統的、教科等横断的、保護者連携、広がり

## I 研究について

### 1 情報モラル教育に関しての本校の状況と課題

#### (1) 児童と家庭

研究校としての実践に取り組むにあたり、本校の「情報モラル教育」の課題把握のため「インターネットについてのアンケート」を実施した。アンケート結果より以下の課題が挙げられる。

##### ① 自律的な活用実践

本校の7割以上の児童が、インターネット接続可能なスマートフォン・ゲーム機などを所持している。児童自身が、タブレットやスマートフォンなど正しく、安全に利活用するための方法を実践する必要性が高まっている。

##### ② インターネット利用状況把握の困難さ

学習以外にも家庭におけるSNS利用（LINE・ツイッター・インスタグラム・TikTokなど）や、YouTubeなどでの動画視聴でインターネットを利用する児童の割合が昨年度よりも高くなっている。また、見るだけではなくDM（ダイレクトメール）の機能があるため、不特定多数、他の人とのやりとりも可能になっている。「見ること」だけに特化したSNSはないため、より詳しい利用状況や実態の把握は困難になっている。

##### ③ インターネットの長時間利用による健康被害の可能性

休日におけるインターネット利用時間が、平日に比べて長くなっている。休日に2時間以上利用する児童は30%を超えており、昨年度と比較しても増えている。利用時間については、今後も増えていくことが予測され、依存症や健康被害が出てくる可能性がある。

##### ④ 児童と保護者とのルール・約束づくり

児童がインターネットを利用する際のルールがある家庭が8割近くになり、昨年度より高くなっているが、未だに2割の家庭が具体的なルールや約束を児童と決めていないのが現状である。

#### (2) 学校

##### ① 低学年からの系統的な指導

昨年度は、高学年への指導に偏ってしまう傾向があった。低学年から系統的に情報モラル教育に取り組める指導体制の構築が課題である。低学年では、情報モラルについて何をどのように理解させるのか検討し、指導していく必要がある。

##### ② 教科等横断的な指導

昨年度は、道徳科や学級活動における情報モラルの指導が多かった。各教科における情報モラルの指導（活用型情報モラル教育）についても教材研究・開発を進めていく。さらに、教育課程上に「情報活用能力（情報モラルを含む）」の位置付けをし、来年度以

降に反映させ、継続的に教科等横断的な指導を推進できるようにする。

### ③ 保護者との連携

情報モラル教育の必要性を周知し、意識をさらに高めていくために、PTA行事等の機会に児童と保護者が一緒に考える機会をもち、自分事だけではなく家族事であると捉えることができるようにする。

以上の状況・課題を踏まえ、教科としての「広がり」や学年の「広がり」、児童から児童と保護者、家族への「広がり」など「広がり」を重視して、メディアリテラシーや情報モラルをつなぎ、育て高めることを目標に設定した。昨年度に引き続き、医療創生大学の中尾剛教授の指導を仰ぎ、テーマを焦点化することで本校職員全体でさらに指導力の向上を目指すこととした。

## 2 実践概要（授業実践、授業研究会等）

時期	実施内容
6月 3日	○第1回 校内研修「各教科における情報モラルと e-learning の活用」
6月24日	○第2回 校内研修「情報モラルアンケートの結果について」
7月 7日	○高学年児童と保護者対象の講演会 講師 医療創生大学 中尾 剛 様
9月 2日	○ふくしま「未来の教室」授業充実事業 第1回地区別研究協議会で発表
9月16日	○第1回 校内授業研究会 第1学年 道徳科 指導助言者 医療創生大学 中尾 剛 様
10月14日	○第3回 校内研修「ふくしま情報モラル診断システム」先行運用について
11月25日	○第2回 校内授業研究会 第4学年 社会科 指導助言者 医療創生大学 中尾 剛 様
11月29日	○ふくしま教育創造コンソーシアムにて実践発表
1月20日	○第4回 校内研修「実践のまとめ」について
2月 7日	○ふくしま「未来の教室」授業充実事業 第2回地区別研究協議会に参加

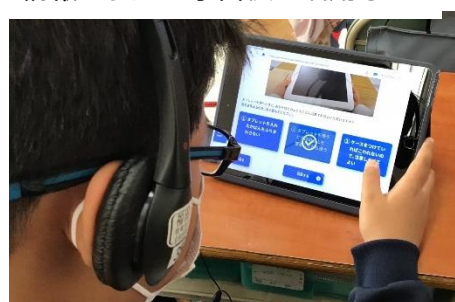
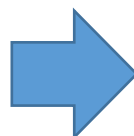
## II 研究の実際について

### 1 校内での実践等

#### (1) 校内研修

##### ① 第1回 校内研修「各教科における情報モラルと e-learning の活用」

情報モラル教育を進めていく上で、実践活用できる資料や文部科学省における情報モラル学習サイトなどの情報共有と「**情報モラル学習サイト**」の取り組み方について、職員が実際に体験して研修を行った。その後、実際に情報モラルの学習後に活用した。



② 第2回 校内研修「情報モラルアンケートの結果について」

本校児童を対象に実施した「インターネットについてのアンケート」の結果、分析の報告と実態把握を行い、各学年で「情報モラル教育」に取り組む際の内容を検討した。

→教育課程上の「情報活用能力（情報モラルを含む）」位置付けの検討

③ 第3回 校内研修「『ふくしま情報モラル診断システム』先行運用について」

「ふくしま情報モラル診断システム」の先行運用協力校に指定され、校内での試行を実施した上で来年度より本格的に運用される内容の精査・意見の集約を行った。

④ 第4回 校内研修「実践のまとめ」

令和4年度に実施した「情報モラル教育」の取り組みについて全体で共有し、来年度の課題を把握した。

(2) 高学年児童と保護者対象の講演会

講師 医療創生大学 教授 中尾 剛 様

講演 「情報モラルについて考えよう！～インターネットの危険から身を守るために～」

現代では当たり前になったスマートフォンは、日常に欠かすことのない存在であり、肌身離さず持っているスマートフォンの危険性や、大人が依存している可能性があること、依存症による健康被害等について講演をいただいた。子どもだけがルールや約束を守ればよいのではなく、親子や家庭で一緒に考えていくことの重要性が説かれた。



(3) 校内授業研究後の講話

講師 医療創生大学 教授 中尾 剛 様

① 「ICTを正しく自律的に活用するための力とは」

- ・ 「禁止、抑制、他律的」な教育から「創造、活用、自律的」な生き方につながる教育への転換の必要性
- ・ **情報モラル教育+デジタル・シティズンシップ教育**の考え方
- ・ ICT社会に通用していくための人材育成手法について（**STEAM教育**）

② 「デジタル・シティズンシップ教育によるメディアバランス（健康的なメディア選択）のアプローチについて」




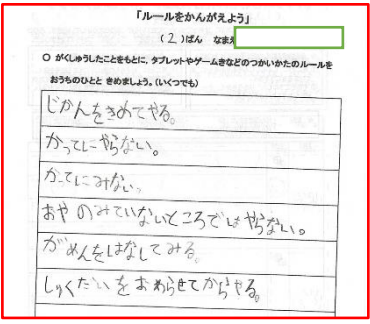

- ・ 使いすぎによる健康被害を防ぐために  
→時間管理・計画、機能制限、約束の明確化、健康的な体験の機会
- ・ ルールづくりは「他律」から「**自律**」への転換の必要性

二つの講話に共通して、「**自律**」がキーワードになっていた。常に進歩・変化する情報社会を生きてく上で、多様な問題について子どもが主体的に考えることや利活用の抑制にとどまらないポジティブな情報モラル教育を進めていく重要性について、教職員全体で学ぶことができた。



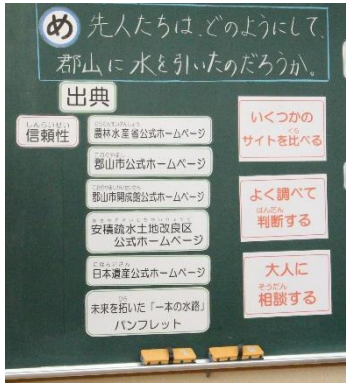


2 校内授業研究会での実践等

(1) 第1学年 道徳科「みんなでルールを考えよう」(C(12) 規則の尊重) の実際

【授業テーマ】 自分や周りの人のことを考え、約束やきまりを守り、安全に情報機器を使おうとする態度を育てる授業	
学習内容・活動	授業の様子等
<p>1 既習学習を話し合い、課題意識をもつ。</p> <p>2 クイズに答え、情報機器を使うときのマナーやルールがあるわけを考える。</p> <p>(1) 休日の利用方法について</p> <p>(2) 利用時間について</p> <p>(3) マナーについて</p> <p>(4) 公共の場での利用について</p> <p>3 なぜマナーやルールがあるのかを考え、発表する。</p> <p>4 これまでの自分を振り返る。</p> <p>5 学習を通して、考えたことをワークシートに書く。</p> <p style="text-align: center;"></p> <p>10月【学級活動】 「コンピュータとなかよし」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭と話し合いながら、ルールづくりをした。</li> </ul>	<p>○ 7月の道徳科では、利用時間・利用場所での使用マナーやルールについて確認し、段階を踏んで考えを深めながら学習することができた。</p> <p>○ 日常生活の具体例を動画で見ることで、児童がマナーやルールがある理由について、考えることができた。</p>   <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>マナーやルールは、自分も相手も気持ちよく過ごすためにあると思います。</p> </div> <p>○ 情報機器を使用する本人・周囲の人の立場になって考えることで、マナーやルールの存在意義に気付くことができた。</p> <p>○ 日頃の自分の生活を振り返り、マナーやルールの大切さについて自分なりの考えをもち、実践意欲につなげることができた。</p> <p>○ 家庭との連携をとりながらルールづくりをし、実践してみてどうだったか振り返りを行い、安全に正しく使う姿勢を育成することができた。</p>  <p style="text-align: center;"></p>

道徳科・学級活動での学習を通して、家庭を巻き込んだ情報モラル教育を継続的に取り組むことができた。

(2) 第4学年 社会科「きょう土の伝統・文化と先人たち」の実際

<p>【授業テーマ】</p> <p>適切に情報を判断・収集する方法を理解し、インターネット等を活用しながら、課題を解決することができる授業</p>	
<p>学習内容・活動</p>	<p>授業の様子等</p>
<p>1 本時の課題を把握する。</p> <p>(1) 課題を把握する。</p> <p>(2) 調べる視点を確かめる。</p> <p>① どこから、どこを通過して水を引いたのか。</p> <p>② のべ何人関わったのか。</p> <p>③ 何年かかったのか。</p> <p>④ 誰が関わったのか。</p> <p>2 課題解決する。</p> <p>(1) グループ活動で課題解決する。</p> <p>(2) 全体で情報を共有し、工事の困難さについて考える。</p> <p>3 学習の振り返りをする。</p> <p>(1) 学習のまとめをする。</p> <p>(2) 次時の予告をする。</p>	<p>○ 国語科や道徳科、学級活動において教科等横断的に学習してきた「出典」「情報の比較」などの情報モラルに関わる内容について確認することにより、信頼性の高い情報かどうか確かめながら調べようとする意識を高めることができた。</p>  <p>○ グループ活動を取り入れたことで、複数ある情報の比較など協力しながら、課題解決に向けて学習していた。</p>   <p>○ 今回の学習の中で、自分の情報活用（情報モラルを含む）について振り返り、次の学習に向けて自分の課題を把握することができた。</p>



導入で情報の信頼性について押さえることにより、出典を確認したり複数のサイトや資料を比較したりして、インターネット上の情報の信頼性を確かめながら情報を活用し、課題を解決することができた。

### Ⅲ 成果と課題について

#### 1 成果

- 講師の中尾剛先生には、授業参観・事後研究会での指導助言、教員対象の講話をいただき、今後の情報モラル教育の在り方や取り組み方を教職員全体で学ぶことができた。
- P T A 教育講演会を通して、保護者と児童が共に学び、情報モラルについての意識を高めることができた。
- 2回の校内授業研究会を通して、低学年における情報モラルの方策や系統的・教科等横断的な指導について研究を深めることができた。
- 情報モラルを含めた情報活用能力の育成に向けて、教員の意識が高まった。特に各教科等や健康教育からのアプローチがあり、様々な担当・立場から情報モラル教育を意識した教育活動が見られるようになった。

#### 2 課題

- 様々な教科において、系統的に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するにあたり、教育課程に適宜位置付けたり、職員間で実践を共有したりするなど、次年度以降も工夫・改善しながら継続的に取り組めるようにしなければならない。
- 外部講師の講話等の「特別な1時間」の指導のみならず、各教科等と関連付けた「日常的な指導」の積み重ねが必要である。継続的・効果的な情報モラルの指導ができるように、「活用型情報モラル教育」を取り入れた授業を推進していく必要がある。
- 保護者を巻き込んだ情報モラル教育を充実し、P T A 教育講演会などに加え、家庭でのルールづくりや振り返りなどに継続して取り組む必要がある。

### Ⅳ 参考文献等

文部科学省（2017）.「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」.

文部科学省.「学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力の育成 体系表例とカリキュラム・マネジメントモデルの活用」PDF版.

[https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt\\_jogai01-100003163\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20201002-mxt_jogai01-100003163_1.pdf)

（参照日 2023/1/8）.

文部科学省.「情報モラル学習サイト」.<https://www.mext.go.jp/moral/#/>

（参照日 2022/12/27）

一般財団法人 LINE みらい財団.「活用型情報モラル教材『GIGA ワークブック』」.

<https://line-mirai.org/ja/activities/activities-moral>（参照日 2022/11/24）.

堀田龍也・西田光昭（2018）.「だれもが実践できる ネットモラル・セキュリティ」.三省堂.

西野泰代・原田恵理子・若本純子（2018）.「情報モラル教育 知っておきたい子どものネットコミュニケーションとトラブル予防」.金子書房.

今度珠美・稲垣俊介.（2019）.「スマホ世代の子どものための 情報活用能力を育む 情報モラルの授業 2.0」.日本標準.